

令和4年度
学校だより

令和4年
6月2日

しおかぜ

佐渡市立
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 3

「利他^{りた}」という言葉、知っていますか

校長 白澤 道夫

利他とは、「(自分本位な行動や競り合いよりも)まず他者の幸福や利益をはかること」ということです。この言葉、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、国内外で注目されている言葉なのですが、日本では、なんと約1200年前から使われているそうです。

批評家、随想家の若松 英輔(わかまつ えいすけ)氏は、「利他」について以下のように述べています。

利他とは何かを考えると、鍵になるのは「つながり」と「弱さ」ではないかと思えます。(中略) コロナ禍だけでなく、大災害やロシアのウクライナ侵攻のような事態が起きると胸が痛む。それは、とおく離れた場所であっても見えない「つながり」を感じているからです。

(大学生と対話をしている中で)

「君自身は心身ともに強くて、大事な人が弱い立場になれば、君もまた弱くなるかもしれない」と伝えると、「自分は自力で存在しているのではなく、人とのつながりのなかに生きているんだ」と素朴な事実気づき、ドキッとしたような実に強い反応が学生たちからありました。

※読売新聞「あすへの考」より一部抜粋

その上で、若松氏は

利他の実践には様々な方法があります。(中略) 誰かに温かい言葉をかけたり話を聞いたりする、そんな素朴で日常的な実践から始まるように思われます。 ※同上

と述べています。

私自身は、利他という言葉も対義語の利己という言葉も知っています。しかし、利他が注目されていることや日本では昔から使われていたことは知りませんでした。

利他と同様に、日本には、昔から物事の考え方や心の有り様を示す言葉がたくさんあります。(例 おもてなし、和 等) どれも日本人の美しい心構えといえます。しかし、ここ数年はコロナ禍の影響のためか、他者を思いやる気持ちが薄れてきているように思えます。それどころか、相手の非をあからさまに責め立てるような文言(インターネット上を含みます。)が世の中に増えてきていると感じています。

私たちは、無意識の内に、他者との「つながり」を断とうとしているのでしょうか。

「このままではいけない。」

そう考え始めた人も多いはず。そうです。このままではいけないのです。

高千小学校としての利他(子どもたちに、保護者の皆様に、地域の方々に、そして職員のために何ができるのか)について、日々声をかけながら考える毎日です。